

## 農業情報

### ◎昭和 35 年度動向調査 農林漁家人口の他産業への流出続く

○農林省が7月26日発表したところによると、昭和35年度中の農林漁家世帯員の減少数は49万6千人で、前年度に比べ3万8千人(8.2%)上回った。

○職業的な異動では、就職離村者は41万3千人で前年度にひきつづき1万人の増加がみられ、離職帰村者は9万3千人で1万人減少し、さしひき離村就職の流出超過分はさらに2万人(7.2%)程度の増加であった。

また人口異動とは関係のない通勤形態による就職者は28万6千人で、前年度にくらべ約5万人(23.1%)と著増している。

○就職者を性別にみると、離村形態のものでは男性

が7%の伸び率を示したのに対し、女性は3%の低下を示した。年齢階層別には、離村の場合、19才以下の若年層は若干低下がみられるが、これに対して20才以上の中、高年層は逆に15%の大巾増加を示した。

また離村就職者を世帯の地位別にみると、2、3男女の前年度に対する伸び率が横ばいであるのに対して、経営主、あととりといった直系家族は22%といちじるしい伸び率を示した。

○就職先の産業別分類では、第2次産業部門のうち製造業への就職は前年度にくらべ21%の大きい伸び率を示し、新規就職者全体に対する第2次産業部門の構成比は前年度の48%から52%へと高まっているのがめだっている。